

APPEAL

発行者

JR 東海労関西地本

大阪台車検査車両所分会

2013年 8月28日

NO.39

台検で 21 歳の若者が自殺！！

悩める若者たちの行く末は？

他労組組合員の皆さん！

2010年8月20日、入社1年目台検配属の高専卒21歳の若者が一人自らの命を絶ったのを知っていますか？特に台検で働く私たちは彼の死を絶対に忘れてはいけなし、新しく入社してくる社員にも伝えていかなければなりません。なぜならばそのことが彼の死を無駄にしないことであり、二度と同じ悲劇を繰り返さないためだからです。

なぜ21歳の若者は自ら命を絶たなければならなかったのか

原因は2009年12月から使用が開始された新台車組立装置にあります。この台車組立装置の使用にあたり、会社は十分な「見習い」の形をとらず、「見学者」として見学ただけで業務を立ち上げようとしてしまいました。そのとき不運にも新台車組立装置の軸箱昇降装置に足を挟むという痛ましい労災事故が発生してしまったのです。そして彼はこの労災で休業したことで、「同期に遅れる」「取り残される」「落ちこぼれる」等の不安から自ら命を絶つという選択をしてしまったのです。

若者を死に追い詰めた新人事賃金制度！

新しく導入された新人事賃金制度により、「命令と服従」「規律と忠誠心」がますます強化され、社員同士の競争を煽りお互いを監視するような職場になったことが根底にあると言えます。さらに今年1月にも米原駅でも21歳の若者が自らの命を絶っています。パワハラが原因ではないかと言われてはいますが、根っこは同じです。

この事実を伝えるのは管理者の責務だ！

ところで、台検の現場管理者は、尊い命が失われた事実を台検に配属された社員に伝えているのでしょうか？彼のご両親は、「二度と同じ悲劇を繰り返さないように」と訴えておられました。概ね1000万円を超える年収を得ている管理者は「当時台検にいなかったので分からない」という言い訳は通用しません。台検で起こった悲惨な事実を受け継ぎ後世に引き継ぐことが現場管理者の責務と言えます。

私たちは職場の声を訴えていきます！